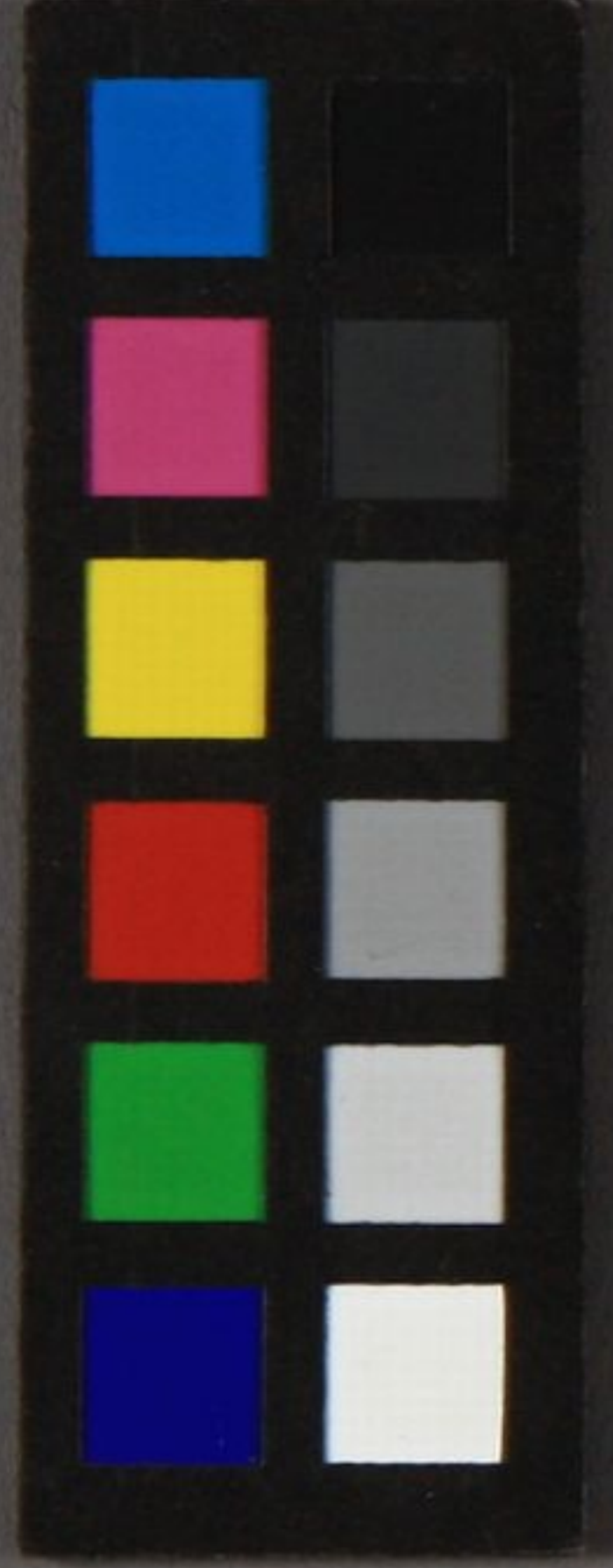


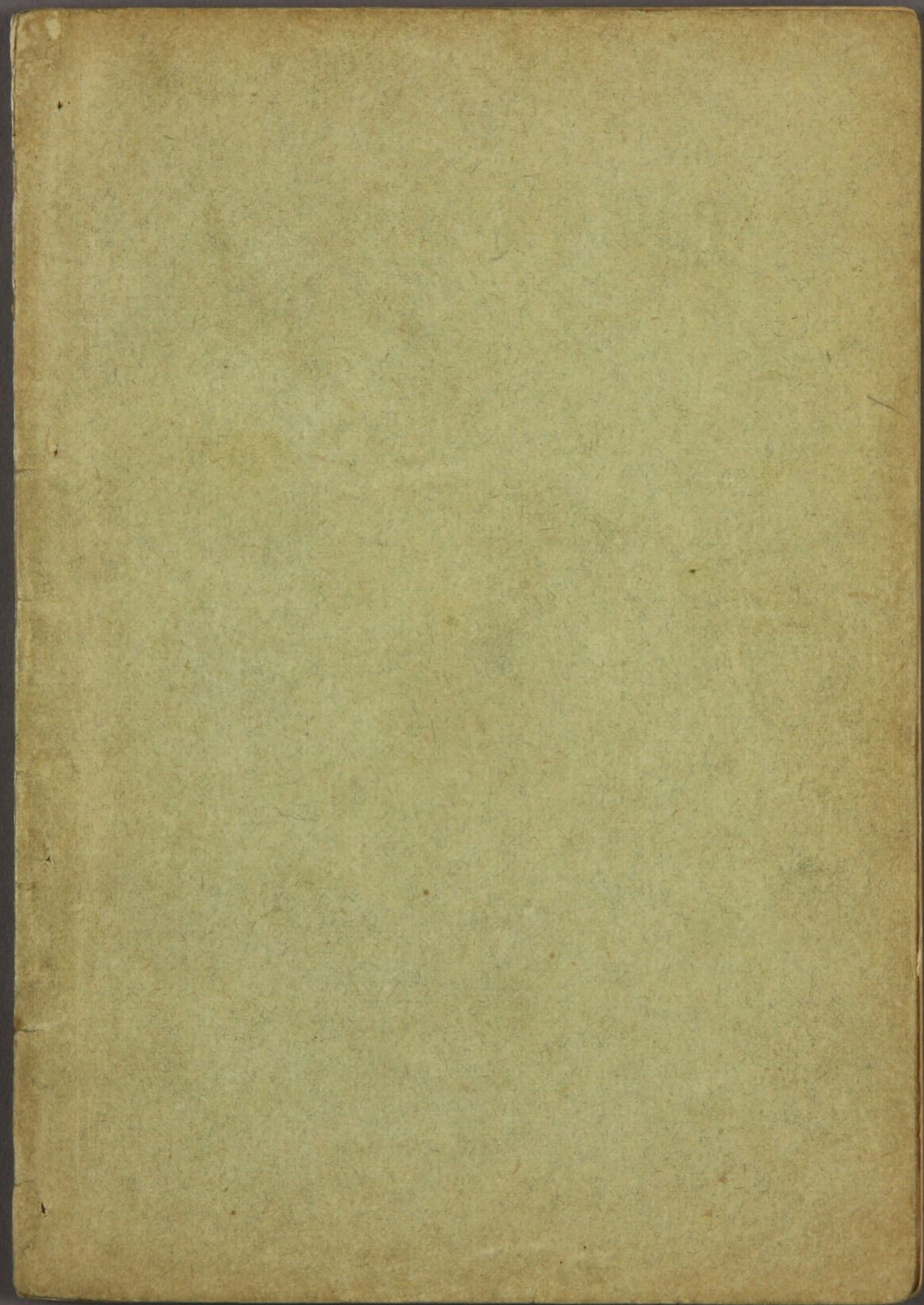
大和田建樹
奧好義同選

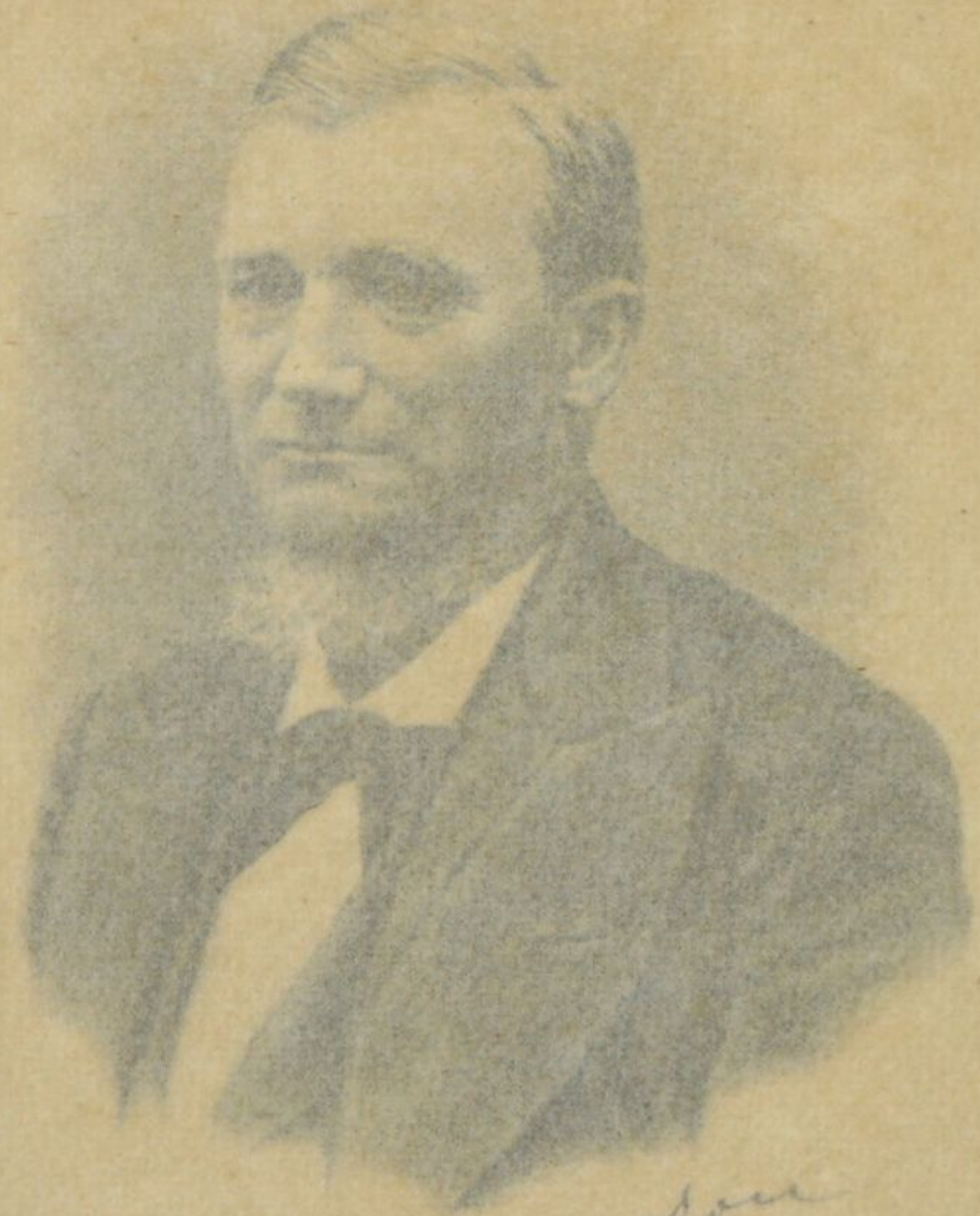
明治唱歌 第一集

東京 中央堂發兌



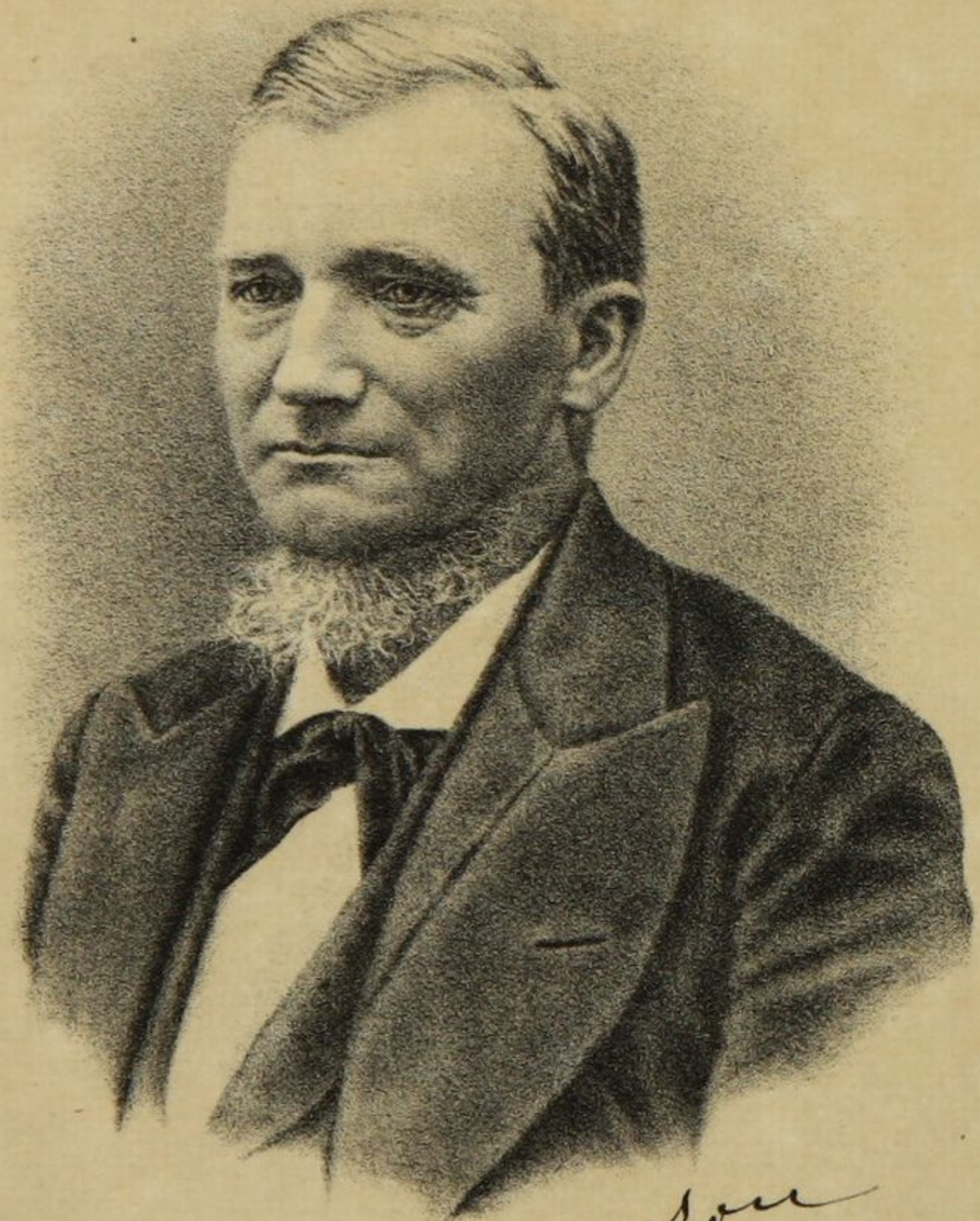






Mr. L. W. Mason

敬啟者
茲將
本館
所印
之書
目錄
開列
於後
以便
閱者
查閱
此佈



Mr. L. W. Mason

Faint, illegible handwriting on the right page of the notebook, possibly bleed-through from the reverse side.



右ニ掲グルハ米國音樂博士ルーサル、ホ
ワイチング、メーソン先生ノ肖像ナリ。先
生ハ去ル明治十三年ヨリ明治十五年マ
デ我文部省ノ聘ニ應ジテ音樂取調掛、東
京師範學校、東京女子師範學校、及ビ學習
院ニ於テ教授ノ勞ヲ執リ實ニ我邦學校
唱歌ノ基ヲ闢カレタリ。好義不肖ト雖ド
モ嘗テ同僚上真行、辻則承二氏ト共ニ先
生ニ就キテ業ヲ受ケ今尚ホ其教授法ヲ

繼ギ唱歌授業ニ従事スルハ全ク先生ノ
賜ト謂フベシ。此度明治唱歌ノ選成ルニ
當リ聊カ厚恩ヲ謝センガ爲メ其肖像ヲ
寫シテ世ノ同學諸君ニ示ス。

明治廿一年三月

興 好 義

序ノ代ふる歌

あさがすみまだ夜をのこす 谷かげのさびしき

空よ たれかまづ春をいざなふ。 うつくしき、

たゞ鳥の歌。

雲ふかく里へだゝりて 友とほき旅路のくれに

憂き心たれなぐさむる。 いさましき、たゞ水の

歌。

鳩車ひきつかれたる をさを兒を夢よおくりて

たれかそのねむりを守る。 愛ふかき、とゞ母の

歌。

人の世のはかなきねがひ　　浮き沈み身をおほ
ふ時　　胸の火をたれかしづむる。　　清浄の、たゞ
神の歌。

おもへ人、耳はわかれて　　うまれなん世のい
ならん。　　もろともは謡ひて謝せよ。　　世はあま
る、あゝ神の恩。

大和田建樹

凡　例

此書の、學校と家庭とを問はず、世の唱歌
を誘導して、高尚の域おすゝめんと、のど
む熱心より、不完全の譏をうけんもかへ
りえず、稿を起したるあり。されむ第一集
より、あるたけ簡單おて獨習しやすたも
のよりはじめ、二集三集と順序をおひて、
高等のもののおよぶさんとす。
毎年春秋二期し、一集づゝ、出版すべし。

卷頭は撰者の曲をおきたるの憚なきに似たれど、これの新年より事を始むるの意よよるのよ、不敬の罪のゆるされよ。卷中お作歌者の名ありて作曲者の名おたものい、西洋大家の歌曲集より撰べるなり。撰曲校正等のことおつたての、學友上真行、辻則承の二君、もつとも懇篤おそれ勞を取られたり。

明治唱歌第一集

目録

新年	八
春の歌	八
鳥の歌	十
春風	十二
暮春	十四
遊歩の庭	十四
學の力	十六
勸學の歌	十八
共に學びし	十八
二月の海路	二十

ふるさとの山	二十二頁
紀元節	二十四頁
家おいなん	二十四頁
日本男兒	二十六頁
皇國の守	二十八頁
母なき吾屋	三十頁
故郷の空	三十二頁
別れの歌	三十二頁
千里の友	三十四頁
草刈の歌	三十四頁
けふよる友	三十六頁
競漕の歌	三十八頁

別れの血しち	四十頁
若竹若松	四十二頁
朝雲雀	四十四頁
旅の暮	四十六頁
沖と磯	四十八頁
天長節	五十頁
クリストマスの歌	五十頁

1 さいはひ おほき しんねん を つかへし
 2 ヨロコビ フカキ シン子ン ムカヘレ
 3 たのしみ な が き しんねん を つかへし

けふ—の うれしき よ めぐみ あまねき
 ケフ—ノ ウレシサ ヨ ジアイ ハテナキ
 けふ—の うれしき よ こころ へだて

きみがよ を やちどせ かけて どもにい ははん
 チチハハ を ヨロヅヨ カケテ トモニイ ハン
 どもだち と て を ひき つれて いぎやう たはん

1 うたへうたへ春をむかへて
 2 うたへうたへ春をむかへて

りど—も に—い ぎやのも やまう たのこ
 りよ—も に—い ぎやのも やまう たのこ
 ソト—も に—い ぎやのも やまう たのこ

そへて あ はせその しらべか へせこ—だま—
 チヨヤ ソ デニフク カゼモケ—ハウ—レシ—

新年

大和田建樹 作歌
 興 好義 作曲

(一) さいはひおほきしんねんを
 めぐみあまねき君がよを
 八千歳かけて共いそゝん。

(二) よほおびふかきしんねんを
 慈愛はてなきち、は、を
 万代りけてともふいは、ん。

(三) たのみながきしんねんを
 こゝろへだてぬ友だちと
 手を引さつれていぎや譚はん。

春の歌

大和田建樹 作歌

(一) うたへうたへ春をむかへて。
 うたへうたへ鳥と雲もふ。
 いぎや野も山も歌の聲をへて
 合はせそれ調かへせこだま。
 空ものどか花もさかえ。

(二) あそべあそべ野邊の芝生よ。
 あそべあそべ蝶ともふ。
 袖まじる露もけぞ心地まや。
 袖ふく風もけふいうれし。
 春よ友よあゝるゆたかに
 あれと何そべあそべうへ。

新年

春の歌

九

1 あさぎり はれて さすひの かけ
2 アルヒハ クモニ ツバサヲ ノベ

むかへて おやこ そらにか ける
アルヒハ モリニ 子グラヲ トヒ

たのしさ いつも かはらぬ こゑ
ココロノ ママニ ウレヒモ ナシ

うたへや あそべや なつかし とりーよ
ウタヘヤ アソベヤ ムレユク トリーヨ

鳥の歌

大和田 葛建樹 作曲

(一) 朝霧はれてさす日のかげ

むかへて親子そらに翔る。

たのしさいつもかいらぬ聲。

歌へや遊べやなつかし鳥よ。

(二) あるひは雲よつばさをのべ

何るむは森よねぐらをとひ

こゝろのまよは憂もなし。

歌へや遊べやむきゆく鳥よ。

1 くさばにふけややはるのかぜ
 2 コズエニフケヤハハルノカゼ
 3 ああにいふけややはるのかぜ
 ひばりのもめをさすま
 ひがナノニホヒキヲサイソフマ
 おがみをふヒキヲサイソフマ
 なたねのうへはをどぶてふぎの
 おたいせぬカソハラスにアマヒヤア
 ついかれしはーぬにふれぬほ
 ーかトキノモツレセヌホ
 ーおかきモノヤマセキカホ
 ーあかきモノヤマセキカホ

春風

大和田建樹 作曲
 奥好義 作曲

(一) 草葉ふけやはるのかぜ

菜種あなねのうへをどぶてふの

ひばりの夢をさまほまで。

つゝさー羽ねゝ觸れぬほど。

(二) こすゑよふけやはるのかぜ

枝えださしかはす何をやぎの

花はなのよほひをさそふまで。

糸いとのもつれを見せぬほど。

(三) あゝ愛らしのはるかぜよ

老おいせぬ空そらよまひあそべ。

わが身みをふきていつまでも

若わかき野山のやまよゆたかよへ。



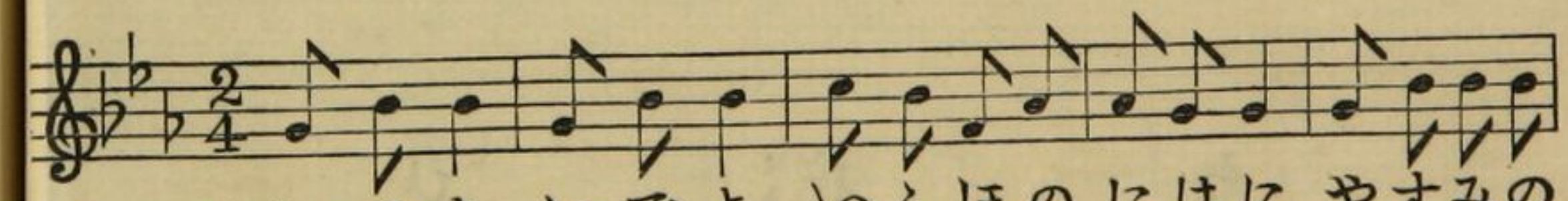
か ぜのまに ま — にちりはて — — て — さ



くらははや — くみにな — りぬ — な がきはるび — をい



た — づらに — くらししみ こ — そはか — なけれ —



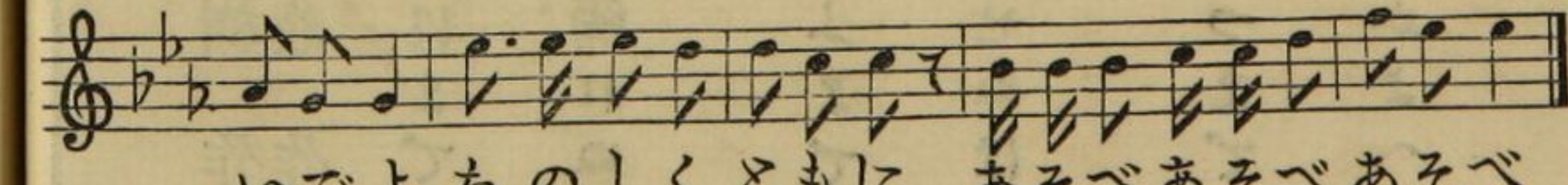
1 いでよ いでよ いうほのにはにやすみの

2 アソベ アソベ ナカヨクアソベスズナノ



かねのおときくときはみなうちつれておくれず

ハナニトマリシテア — モトモダチツレテソラニゾ



いでよたのしくどもにあそべあそべあそべ

アソブタノシクトモニ アソベアツベアソベ

暮 春

上 税所あつ子作曲
真 行 作曲

かぜのまよ／＼ちりはて、

さくらははやく實みなりぬ。

ながき春日はるびをいたづらよ

くらし、身みあそはかなけれ。

遊歩の庭 大和田建樹 作歌

(一) いでよいでよ遊歩いっほの庭にはよ。

休やすみのかねのおやさく時とき

皆みなうちつきておくますいでよ。

樂たのしく共とも遊あそべ遊あそべあそべ。

(二) あそべあそべ中なかよく遊あそべ。

鈴菜すずな花はなよとまりてふも

友ともだちたれて空そらにぞあそぶ。

樂たのしく共とも遊あそべ遊あそべ何なにそべ。

あだにすぐすなけふのひを ぬ—は
 むだにくらすなこのとしを ことしは

ふたたびかへりこず ますまなびのにはに
 ま—たどめぐりこず

つどふこよ たもまかずめやをしへぐさ

もいも口
 こいしくイ
 みとしノ
 ぶこノ
 こはギク
 まハレラ
 ヤカワシ
 びりレヌ
 一ノツ
 一ドクツ
 一ナドツ
 一マ三ツ
 一にハニ

のソノイヤ
 一あニ
 一きニ
 一しニ
 一かがし
 一つし
 一なと
 一アア
 一アア
 一アア
 一ゴカガ
 一トカ
 一イカ
 一ウカ
 一ワカ

るナにせ
 るにせ
 るにせ
 るにせ
 るにせ
 るにせ
 るにせ
 るにせ

かぎぬが
 しりとぎ
 のハもテ
 けかかき
 ふケリヨ
 のテはキ
 わちオミ
 かとキサ
 れセカラ
 しモヘヨ
 エルニ
 のエニ
 一ばセ
 一セキ
 一るに

勸學の歌

高崎正風 作歌
 興 好義 作曲

あだにすぐすなけふのひを
 けふはふた、び歸り来ず。
 むだにくらすなこの年を。
 ことしはまたと回り来ず。
 學のにはふつどふ子よ
 たゆまずつめやをしへ草。

共し學びし 矢田部良吉作歌

(一) 共し學びしやまとぶみ。
 共し—らべいあづま琴。
 あ、おつかし、その昔の
 けふのわかれし忍ばる。

(二) 松のみどりのかはらじと

いひし言葉はかた糸の
 あ、友垣そのちざりは
 かけて千年もたにせじを。

(三) 君は筑紫ふわれの越

雲井はるかよ立ちわかれ
 何、年月あひみぬとも
 雁はゆきかへ春秋ふ。

(四) 霜はつれぬ白菊の

色をこ、ろよそのわざを
 あ、月日よいやみがきて
 清さみさをとせよのこせ。

1 はーのーうーらーのーうーなーばーらーやーをー
 2 ヤーのーのーらーらーのーホーシーカーカーがーハ
 3 あーにーあーまーのーにーおーほーらーみーはー又ー
 4 イーツーコーナールーラーンーナーモーシーラー又ーハ
 ちーのーやーまーやーまーかーすーむーなーりーくー
 カーリーカークカーレマカスグキヨヤヤイ
 たーらーさーかーまーあーあーるーなーキーア
 ナーレコージマナガレツナキキ
 もーかーほーかーげーかーみーぶーどーりーのーむー
 がーアーアーラーシふカオオハシレコハハ
 まーヤーアーがーキヤカカハルノヨハハシ
 ラーシフキヤミハルノヨハハシ
 れーてーごーぶーさーへーおーもーしーろーやー
 ラーノーケーハーヒーモーターダーナーズ
 ーイーカースーヒーけー一ーんーテーそーケー又ー

二月の海路

鳥居 枕作歌

(一) 春のうらの海原や

遠の山々かをむるなり。

雲か帆影かみづとりの

むれてとぶさへおもろや。

(二) 闇の雲間の星のかげ

光かくれてすごき夜や。

やがて嵐かおろしこん。

空のけいひもたゞならず。

(三) 雨ふあらは大海の

怒濤さかまさ何るなり。

いまやわが船かくれ岩よ

ふまてくだけんおそろしや。

(四) いづあふるらん名も知らぬ

はなまき小島は流れつき

あらふみやみ春の夜は

志ほぢかすこてあけそめぬ。

故郷の山

大和田 建樹 作曲
 辻 承 作 曲

(一) ころも晴れゆく朝日のそらよ
 まざれぬ面影かはらぬかたち。
 ほのかに見えたるふるさとの山。

(二) むれたつ鷗のひまをき羽ねふ
 慈愛のかほむせ樂土のひたひ。
 あらはれかくきてあれ近づけい。

(三) 戀しきこがやのあの山もどよ。
 妹と植ゑあるかきねのすも、
 わかきし木蔭をはや行きて見ん。

(四) 書讀む小窓よか、りし薔薇
 かはらで茂るあむかしのまよふ。
 文もあまりて身をむすぶらん。

(五) こひしき父母あの山をよ。
 夢路ふかよひ十年のおろ。
 とびたつ思をはや告げまほし。

(六) わが船むかへてあつかうがほふ
 別路おくりしはがたのまよ。
 あれ何ぞ立てるよふるさとの山。
 あきあれ立てるよふるさとの山。

ふるさとの山

1 こころも はれゆく あさひの そらに ほのかに
 2 ムレタツ カモメノ ヒマナキ ハ子ニ アラハレシ
 3 こひしき わがやは あ のやま もとよ わ かけし

みえたる ふるさとの やま まぎれぬ おもかげ
 カクレテ アレチカ ツクハ ジアイノ カホバセ
 こかげをは やちきて みーん いもとこ うゑたる

かはらぬ かたち あれあれ みえたる ふるさとの やま
 ラクドノ ヒタヒも アレアレ ミエタル フルサトノ ヤマ
 かきねのすも たけにも あまりて みをむすぶらん

4 ふみよむ こまごに かかりし せうび まりうつ
 5 コヒシキ チチハハ アノヤマ モトヨ トビツ
 6 わがふね むかへて なつかし がほに あれあれ

そのふを おほひしーぶだう かはらで しげるか
 オモヒヲ ハヤツゲーマホシ コメヂニ カヨビシ
 たてるよ ふるさとの やーま わ かけぢ おくりし

むかしの ままに すずめは たがてに なれてかーあそぶ
 トトセノ ココに クマナク たタルハ ウレシヤーコヨヒ
 すがたの ままに あれあれ たてるよ ふるさとの やーま

ふさうーの うみにうかみでし あさひの
 ひかり さながらに いまもにほひて
 ひのまる の みはたかがやくきげんせつ

1 いざや わーれ いへに いなん いつも
 2 イザヤ ワーレ イへニ イナン イツモ
 3 いざや わーれ いへに いなん むねに

たのしき わが いへ に は は の ひぎに
 ハルビノ ワガ イへ ニ マ ド ノ スズメ
 たえせぬ わが いへ に と ほ く むかふ

ねむる ちこの ゑが ほ い ざや みにい な ん
 ソノの コツ ーツモ リマ アソブナ リ
 もりの こず ゑ われ を まちて にほふな り

紀元節

下田 好義 作曲
 興義 作歌

扶桑の海ふうかみてー

あさひの光さながらよ

いまもほひて日の丸の

御旗かゞやく紀元節。

家よいなん 大和田建樹 作歌

(一) いざや 家よいなん
 いつも 樂しき家が家よ。

母のひざにねむるちだの
 ゑがほいざや見ふいさん。

(二) いざや 家よいなん
 心も春日のわが家よ。

窓のまはる園のこてふ
 いつもあまきと遊ぶなり。

(三) いざや 家よいなん
 胸に絶えせぬわが家よ。

とほくむかふ森のおすゑ
 玉子をまちておほふあり。

1 につぽんだんじのまごころは きみがよまもる
 2 ニツポンダンジノマゴコロハ きみはカラマモル
 3 につぽんだんじのまごころは せんぞをまもる

くのにのたて ことあるどきにはすすむべし
 クニノレロキ 知ウギノヨロヒヲスミキツ
 くにの か き いさをを たててのちのよに

うしろをみせすすむべし 一きにみちなき
 イノチヲヌホマれのこすべし アサユフミガク
 くちせぬほまれのこすべし せんぞにうけたる

やまごまごもろ なみにはてなき うみまごもろ
 マゴシヒもヲを なクがみにナラセウクカ
 たまごしひもヲを なクがみにナラセウクカ

日本男兒

大和田建樹作曲
 上 真行作曲

(一) 日本男兒のまごころは

君が代までもる國の楯。

事あるやきふは進むべし。

うしろを見せお進むべし。

雪に路あき山までも

波ふはてぬき海までも。

(二) 日本男兒のまごころは

はらうら守る國の城。

忠義の鎧を身ふきつ、

ゆのちをすて、むかふべし。

あさゆふみかく真心を

挫くお折るお國のため。

(三) 日本男兒のまごころは

せんぞを守る國の垣。

いさををたて、後の世よ

くちせぬ譽のおすべし。

せんぞお承けたる魂を

みがきて照らせむが國を。

1 きいまス
2 たサもス
3 れメレメ
4 やヤヤヤ
きいまス
たサもス
れメレメ
やヤヤヤ
い三み三
さナナナ
きいまス
たサもス
れメレメ
やヤヤヤ
はルはメ
おツちミ
ほハチナ
くモハス
モノハス
モノのメ
ぞクぞク
りりりり
しししし
もモもモ
とトとト
すすすす
しししし
なれツ
るタもツ
るカマリ
そホクモ
おナヨマ
れモをヲ
かりにニ
なヨクク
るツのノ
るテぼツ
そハン
おミふセ
めめめ
たたた
ののの
みみみ
ききき
りりり
なナナ
めめめ
たたた
ののの
ににに
くくく
みみみ
れれれ
かかか
なナナ
ととと
こここ

外山正一 伊澤修二 作曲

皇國の守

(作者許可)

(一) きいまれやきたれやいざきたれ。

よせくる敵はおほく聖も

死すともしりぞく事をかき。

(二) いさめやいさめやみあいさめ。

皇國をまもるつはもの

死すともしりぞく事なをき。

(三) まもきやまもれやみあまもれ。

おそる、ものい父母の

死すともしりぞく事をかき。

(四) すゝめやすゝめやみなすゝめ。

をゝめやすゝめやみあすゝめ。

死すともしりぞく事なをかき。

皇國をまもれやもろともよ。
おそる、なをかきおとる、か。
皇國のためなり君のため。
つるぎもたまも取んのその。
身の鐵よりあおほかたし。
皇國のためなり君のため。
他國の奴隸とふるおとを
墳墓の國をよくまもれ。
皇國のためなり君のため。
皇國の旗をばお立て、
先祖の國板まもりつゝ、
皇國のためなり君のため。

3/4

みこみこ
 ややや
 ははは
 ややや
 ががが
 わわわ
 一
 二
 三
 四
 さかか
 一
 二
 三
 をむむ
 るふル
 れれれ
 コルレ
 のハハ
 ナ
 チチチ
 ナニニ
 キハハ
 ははは
 れれれ
 ぬズ
 かかか
 とつと
 につれ
 ななな
 ななな
 ぎぎぎ
 ななな
 ななな
 きぎぎ
 一
 二
 三
 四
 ちちち
 こここ
 一
 二
 三
 四
 ちちち
 ががが
 一
 二
 三
 四
 わわわ
 一
 二
 三
 四
 こここ
 一
 二
 三
 四
 ちちち
 こここ
 一
 二
 三
 四
 ちちち
 ややや
 ははは
 ややや
 ややや
 みみみ
 ナ
 コ
 一
 二
 三
 四

母なき吾屋

大和田建樹作歌

(一) は、あまわがやの暗ゆくこ、ち。 のおれる幼(こども)目(め)も泣(な)きはれぬ。
 ち、うへ何(なに)ねぞみ何(なに)とかすべき。 母(は)なきわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。

(二) は、あまわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。 春日(はるひ)の光(ひかり)あ、まの照(て)らす。
 鳥(とり)啼(な)き花(はな)ちりなつきへといす。 母(は)なわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。

(三) は、あまわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。 朝夕(あさゆふ)むかひしつく夏(なつ)のうへふ
 つえれるその書(か)たれとか讀(よ)めん。 母(は)あまわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。

(四) 母(は)なわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。 あまたる言(ことば)葉(は)を耳(みみ)にも聞(き)かず。
 われらを遺(のこ)していつおふ行(い)き。 母(は)なきわがやの暗(やみ)ゆくこ、ち。

母なき吾屋

1 おふそらはれてあきかせふきつきかげ
2 スミユクミツニアキハギタレタマナス

おちてすずむしなくおもへばとほしこ
ツユハススキニミツオモヘバニタリコ

きやーのそらああがちちははいかにおはす
わーノノベアアワガハラカラタレトアソブ

1 たとひちさとをへだつともころ
2 ワカレハアフノーハジメツトカシノ

へだてぬともどちはのぼるあさひに
ヒートモイヒオケリソデノナミダヲ

おもはまし がたぶくつきに おするなよ
ヲニタテ マタノアヒノカズヨマ

故郷の空 大和田建樹 作歌

(一) 夕空はきて何きかせふき
つきかげ落ちて鈴虫なく。
おもへむ遠く故郷のそら。
あゝわが父母いかにわす。

(二) すみゆく水は秋萩たき
玉を露のすゝたよこつ。
おもへば似たり故郷の野邊。
あゝわが兄弟たきと遊ぶ。

別れの歌 加部嚴夫 作歌
辻則承 作曲

(一) た望ひ千里をへだつやも
あゝろへだてぬ友どちの
のぼる朝日おおもぬまゝ。
かたぶく月ふりするなよ。

(二) 別れに逢ふの始どと
むかしの人もいむおけり。
袖のなみだを緒に貫きて
またれ逢ふ日の数よまん。

にこそし
るらげに
おろかた
こころウ
はモノト
きまはミ
ツイにキ
しハにク
みかぎロ
にレシ
もモビモ
とオサオ
1
2
3
4

のノはズ
かソるラ
ほヨはカ
のノきハ
とキナ
さモミ
ちつきケ
りりもモ
なナご子
るルメノ
カツウタ
かうあウ

のききサテ
シシレ
ヒヒナ
ココロハ
ゴゾモヲ
ミミナレ
キキはワ

しエス
グナの
みハの
のノし
にべレ
たノな
ばヤヤ
らザシ
さいを
もバリ
ふラご
1
2
3

うウて
くカヘ
よカヘ
きタ
ガツラ
かツラ
ひバリ
さバシ
あヒ
んヨリ
な子け
れスリ
わヤナ
にテ
もレ
とタ
ばし
がガ

んデレ
みマク
をス
みマを
きサミ
もヲに
たメ
まユ
にノ
こ三
こキ
きツ
とツ
ぶし
かタ

千里れ友 大和田建樹 作歌
興 好義 作曲

(一) 共に見し月の梢ふかゝる取。
千里の外れ君ぞこひしき。

(二) 面影の今もみ空ふうつるなり。
雲井れよその君ぞ戀しき。

(三) 淋しき庭に木蔭を歩めども
君を春を花もよほはず。

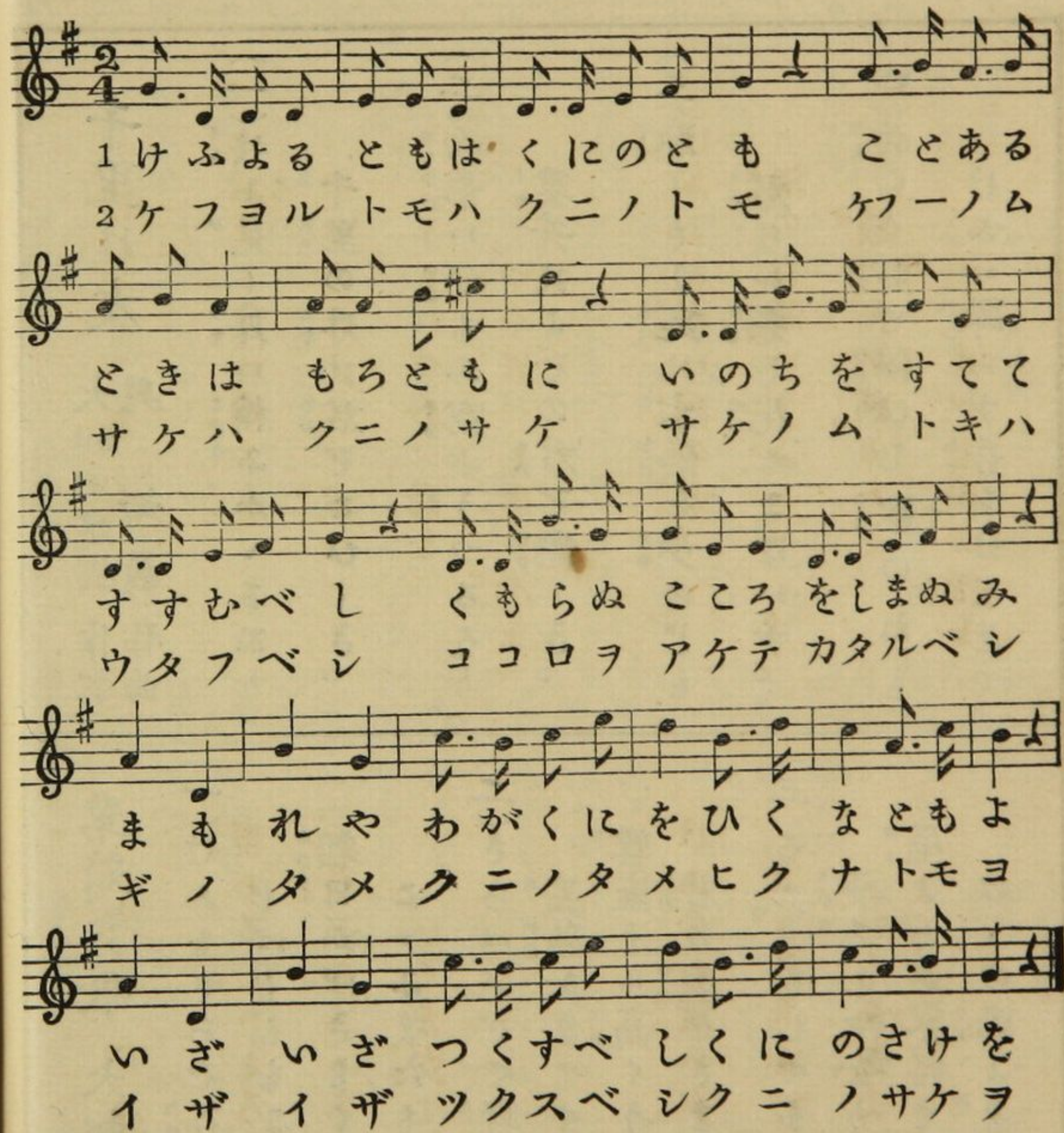
(四) 面白く君と謡ひし歌のねも
けふの歸らす吾をはなきて。

草薺の歌 大和田建樹 作歌

(一) けふもさらむ谷の水
一ぱいともし別をせん。
朝日かげさまく薄ぶとき
こゝふまたも君を見ん。

(二) さらばいざや野邊の花
笑顔たきてやすく寐よ。
雲雀を高くうたひつゝ
君の夢をさますまで。

(三) ちごりをしやかれし野の
姿みえずなりよけり。
星よわが家路てらいつゝ
は、の膝に身をかくま。



1 けふよる ともは くにの とも ことある
 2 ケフヨル トモハ クニノ トモ ケフノム
 どきは もろとも に いのちを すてて
 サケハ クニノ サケ サケノム トキハ
 すすむべし くもらぬ ころを しまぬみ
 ウタフベシ ココロヲ アケテ カタルベシ
 まも れや わが くにを ひく などもよ
 ギノ タメ タニノ タメ ヒク ナトモヨ
 いざ いざ つくすべし くにの さけを
 イザ イザ ツクスベシ クニノ サケヲ

けふよる友

大和田建樹作歌

(一) けふよる友の國の友。

事ある時にもろやもよ

いのちをすて、進むべし。

曇らぬあゝろ惜しほぬ身。

まもれやわが國を。

ひくを友よいざいざ

つくはべし國の酒を。

(二) けふよる友の國の友。

けふのむ酒の國の酒。

酒のむ時、うさふべし。

こゝろをあけて詰るべし。

義のため國のため。

ひくを友よいざいざ

つくはべし國の酒を。

別れの血しほ

大和田建樹 作歌

(一) 日本男児のあゝろのひかり

ますくみ がきて 世界を照らせ。

いま 酌む酒をわかれの血しほ。 そゝぎてわするな誓の言葉。

(二) 雨風さかまく萬里のうみよ

怒濤をかかしていざゆけ君よ。

見知らぬ海山すぎゆくみちふ

迎へてまつかりいざゆけ君よ。

♯

1 につぽん だんじの ところの ひかり
2 アメカゼ サカマク バンリーノ ウミニ

ますます みがきて せかいを てらせ
ドタウヲ ヲカシテ イザユーケ キーミヨ

いまくむ さけこそ わかれの ちしほ
ミシラヌ ウミヤマ スーギユーク ミーチニ

そそぎて わするな ちかひの こぼば
ムカヘテ マーツナリ イザユーケ キミーヨ

1 い そのやま しろくつ きはい—でぬ—け
 2 オ キノイロ クレテヨ カゼサ—ムシ—ア
 ふもはや なごりつ りをや—めん—あ
 ハレマツ ヒトノフ 子ハイ—ツコ—ソ
 しびた—くかげのと ほくろ—ごく—こ
 ラカウ—ナバラカハ テモミ—エズ—コ
 ひじわ—が つまはま つのあな た—は
 コロボ—ソ キミガヒ ビノユク へ—ナ
 ものか—ず みえてふ ねにを—ごる—こ
 レシロ—ノ オトノア レニキ—コユ—イ
 れぞわが いのちい ぎやい—へに—
 マヅワガ ム子ノチ ミハヨ—ソニ—

若竹 若松

大和田 けい子 作曲
 葛鎮 作曲

(一) まあびのまどのわか竹
 露ふれはらふ朝風の
 草木かきゆく冬の死て
 雪のふきども折れもせず。
 すぐなる心たぐひなや。

(二) まあびのふいのわか松
 ふさくる風もおのづから
 木、いもみぢの秋くまど
 野山そのゆくしぐれよも
 むはらぬ節あのもしや。

しげきや千代のすゑかけて。
 おとも涼しくかよふあり。
 霜はわけどもいろあせず
 かいらぬ姿たぐひなや。
 あけくれまなびの友とみん。
 すぐあるふしを友とせん。

さかえよ鶴の巣ぐふまで。
 琴のしらべよ通ふまで。
 同じと死の陰ふかく
 うつらぬ節たのもしや。
 よるひるこゝろの友とみん。
 かいらぬ色を友とせん。

若竹 若松

1 2 3 4
 かす みにあ が れ り あ は れ あ さ ひ ば り す
 ク年ニナノレリアハホトトギスリカ子
 かたににおちたゲリアハホトトギスリカ子
 ナマニサワゲリアハホトトギスリカ子
 らまやら をアどヨ やトほソ おタどト きチビヒ はイコス なデエテ れテテテ
 らきすホ さかぎカ きゲリゼ ふキカサ カヨカム きキキハ らラタマ 二二二
 むつうシ ののの うコカト たエゲモ カヒユ をじまキ リキぞキ わワシア たタブソ るルむブ
 ソソソソ

朝雲雀

大和田建樹 作歌

(一)霞にあがれりあわれ朝雲雀。

むらさき花深苑そらふ

薨のねぐらを早くおきはぬき
 そのうたかをりきたる。

(二)雲井小なのれりあはき時鳥。

月のげ花よきそらよ

深山の木の間にあとふ立ちいで、
 そのおとひひきわたる。

(三)門田はちたり何れ天つ雁。

うす霧かゝるゐたに

かさゑる海山とほく飛びこえて
 そのかげいほぞまづむ。

(四)波間よ喋り何れ小夜千鳥。

潮風さむきそまよ

ねぎをの枕をよそよとひすて、
 をれ友ゆたゝあそぶ。

1 おちばを さそふ もりの しぐれ
 2 ススキニ ムセブ タニノ アラレ
 3 ちめにも みちる こひし わがや

なみだと ちりて かほをう つ
 ユフグレ サムク ミニゾレ ムて
 そなたの そらは きりこめ て

ふるさとほき たびのそら ちきがたしらぬ のべのみち
 コノマラモルル ヒノヒカリ ヤマベニヒビク カ子ノコエ
 つきかげほそく けむるなり なきむかりも あときえぬ

ひとよを たれに やどからん
 ウレシヤ アレニ ヤドガラん
 あけなば いそぎ ふみやらん

旅の暮

大和田建樹作歌

(一) 落葉をさそふ森のしぐれ

ふるさと遠き旅のそら。

一夜をたれふやどからん。

おみごと散りて顔をうつ。

ゆきがた知らぬ野邊の路。

(二) すゝさふむせぶ谷のあら

木の間をもる、火の光。

うきやあきよやどからん。

夕ぐささむく身ぞむ。

山邊はひまぐ鐘のこゑ。

(三) 夢も見ゆるこひしこがや。

月影ほそくけむるあり。

あけなばいそぎ文やらん。

そなたの空に霧こめて

あきゆく雁もあきえぬ。

1 い そのやま しろくつ きはい—でぬ—け
 2 オ キノイロ クレテヨ カゼサ—ム シ—ア

ふもはや なごりつ りをや—め ん—あ
 ハレマツ ヒトノフ 子ハイ—ツ ユ—ツ

しびた—く かげのと ほくう—ご—く—こ
 ラカウ—ナ バラカハ テモミ—エズ—コ

ひしわ—が つまはま つのあな た—は
 コロボ—ツ キミガヒ ビノユク へ—ナ

ものか—ず みえてふ ねにを—ご—る—こ
 レシロ—ノ オトノア レニキ—コ ユ—イ

れぞわが いのちい ざやい—へ—に—
 マヅワガ △子ノチ ミハヨ—ソ ニ—

沖を磯

大和田建樹 作曲

(一) いその山しろく月いいでぬ。

けふもはやあごり釣をやえん。

蘆火たくかげのとほく動く。

戀しむが妻の松のあなた。

得物かす見えてふねお躍る。

こまどまが命いざや家お。

(二) おきの色くれて夜風さむし。

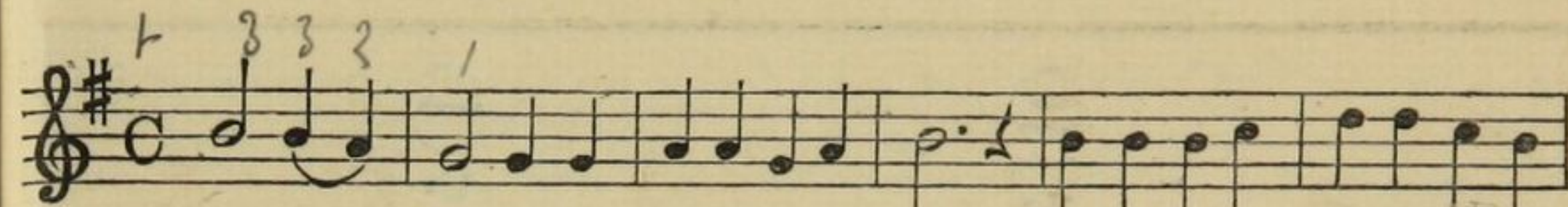
あはままつひとの舟のゆづこ。

そらか海原かはても見えす。

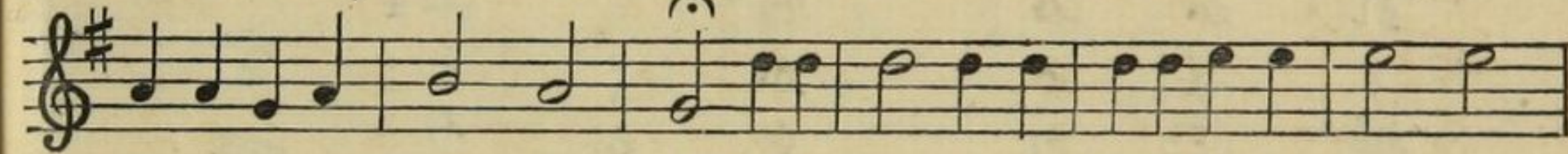
こゝろぼそ君が日くのゆくへ。

馴れし艦のおとの音きこ聞ゆ。

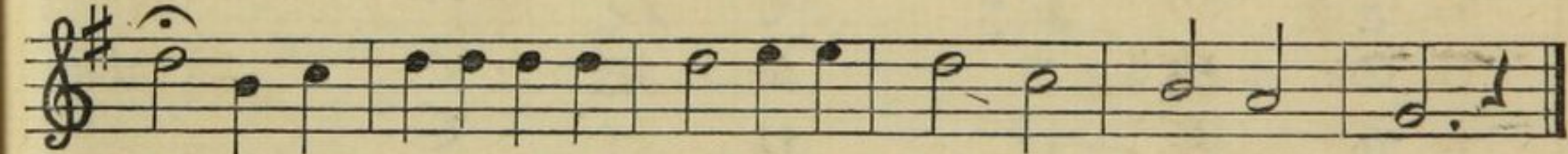
いまだわが胸の波のよそよ。



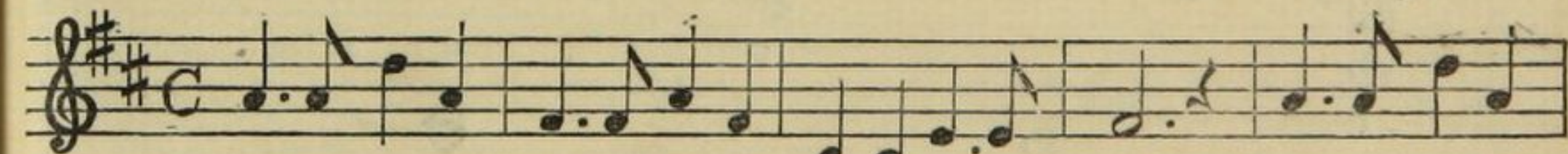
1 てんぢやう せつの あさぞらに とどろく いはひの
2 テンヂヤウ セツノ アサカゼニ ヒラメク ヒノデノ



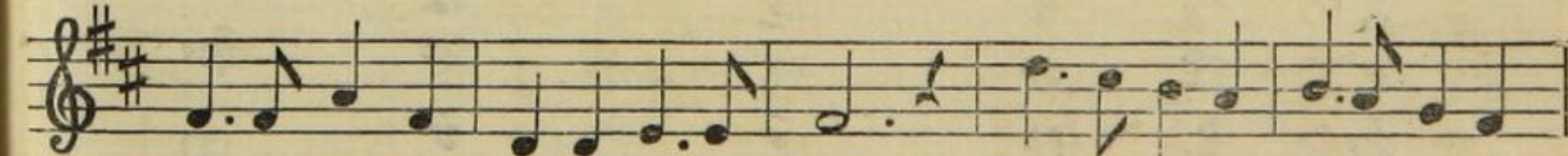
うたごゑ たか しきげやひとびとあれこそ
ハタカゲ タカ シミヨヤヒト ビトアレゴソ



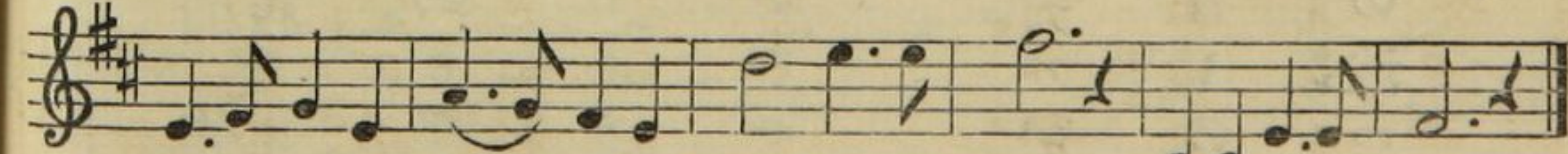
はわが ひのもと のまもりの ひびき
ハワガ オホキミ ノミイツノ ヒカリ



1 てんち に みちたる かみのおん やみにも
2 ココロニ アマレル トモノアイ シモニモ



かくれぬ かみのおん みそらの ほしとぞ
カレセヌ トモノアイ ソノフノ キグトゾ



われらを てーらす うれしや かみのおん
ワレラニ カーラル ウレシヤ トモノアイ

天長節

大和田建樹 作歌
上真行 作曲

(一) 天長節のあさぞらよ

とどろく 祝の歌聲たりし。

さげやひとびとあれおそい

己が日本のまもりのひびた。

(二) 天長節のあさかぜよ

ひらめく日の出の旗影高し。

みよやひとびとあきこそい

己が大君の御威のひかり。

クリスマス之歌

大和田建樹 作歌

(一) 天地ふみちたる神の恩。

やみよもかくまぬ神の恩。

みそらの星とぞわきらを照らす。

うれしや神の恩。

(二) こゝろお餘れる友の愛。

霜よも枯れせぬ友の愛。

園生の菊やぞわきらよかをる。

うきしや友の愛。



明治二十一年五月十日印刷
 全五年五月十四日出版
 全四年六月八日再出版
 全三年七月八日再出版
 全二年十二月廿五日再出版
 全一年一月十五日再出版

版權所有

上製定價三十五錢
 並製定價十二錢

編者

東京牛込區市ヶ谷仲ノ町四拾番地

大和田建樹

好義

發行者

東京日本橋區通鹽町八番地

宮川保

全

印刷者

東京京橋區銀座貳丁目拾貳番地

宮本

敦

發行所

東京日本橋區通鹽町八番地

中央

堂



高等師範學校教諭 大和田建樹先生
高等師範學校助教諭 奥好義先生 同選

●明治唱歌 第一集 定價十二錢 郵稅六錢

目錄 新年●春の歌●鳥の歌●春風●暮春●遊歩の庭●學の力●勸學の歌●共に學びし●二月の海路●ふるさと
の山●紀元節●家にいふん●日本男兒●皇國の守●母ふき吾屋●故郷の空●別れの歌●千里の友●草苺の歌●け
ふよる友●競槽の歌●別れの血しほ●若竹若松●朝雲雀●旅の暮●沖と磯●天長節●クリスマス之歌

●明治唱歌 第二集 定價十二錢 郵稅六錢

目錄 柳櫻●枯の聲●時●樵の歌●春の朝●あすは千里●命の雨●自然の友●浦の夏●すゝめや子供●神は我に
●上野の岡●舟あそび●慈愛の笑顔●箱庭●舟路の歌●岩間の清水●暮の星●あはれの少女●學課の後●夜半の
曲●樂しみの時●隔ての影●暗夜の光●花の少女●首夏●汀の夕●別れの鳥●謠ひて謝せよ

●明治唱歌 第三集 明治廿二年 五月發行

高等師範學校教諭 大和田建樹先生
高等師範學校助教諭 奥好義先生 同選

●明治幼稚の曲 定價八錢 郵稅四錢

これに獨乙英吉利の幼稚園唱歌集の内より奥先生の撰べられたる譜より大和田先生の歌
をつけられたる書あり

高等師範學校教諭大和田建樹先生著

● **いさり火** 定價十五錢 郵稅六錢

これ大和田先生が明治唱歌その外の雜誌等にもまだ載せられざる新趣向の近作を
あつめて一冊とせられたる長篇の歌集なり
高等師範學校助教諭與好義先生編

● **進行曲** 定價三錢 郵稅二錢

右の諸學校に於て生徒の運動進行を爲す際「オルガン」「ピアノ」「バイオリン」等を以
て奏するものあるが未だ此種類の書出版なきに因り不便少からざりしに今此適切な
る樂譜四種の撰述あり其益鮮少なからざるべし

式部次官從四位勳三等男爵高崎正風先生作歌
式部職樂師兼東京音樂學校教員上眞行先生作曲

● **忠愛將碁之盤** 定價三錢 郵稅二錢

唱歌 洋琴伴奏附

本曲ハ小學兒童ニ忠君愛國ノ志ヲ養ハシムルノ一助トセンガ爲メ男爵高崎正風先生
ノ作フレタル唱歌ニ上眞行君ノ曲譜ヲ附セラレタルモノニシテ昨年七月東京音樂學
校ノ演奏會ニ同校生徒諸氏ノ始テ合唱ヲ試ミラレタル一大新曲ナリ今般弊堂作者ノ
許可ヲ得テ出版仕候間小學校諸君ハ申スニ及バズ苟モ唱歌ニ志アルノ方々ハ速ニ一
部ヲ購求シテ壯快ナル歌詞ト活發ナル曲節トヲ味ヒ玉ヘ

中央堂主人敬白